

行旅例

し、都の町々近き村里、老たるも若きも、かたらひつ、二十三十あるは百にも満てる人の、願はて家に歸る日、家族うからまたしきかぎり、逢坂山の水うまやに集ひ待酒汲かはし宴をなす、是を坂迎といふ、こ、より家までかへるさ、迎の人と共に謠ひつれて、都の町くだりさわぎ行く事、引きもきらず、こをみる人大路に立ちつゞけり、三月廿一日、上賀茂の一郡松林の加茂塘をすぐるに、鞍馬口の乞食の兒等いで、錢を乞ふ事頻りなり、加茂村の百姓さか迎の日、唐坂といふ菓子、を二ツづ、あたへ、また人数こ、らなれば、菓子の代にあし一筋あたふるが、古き例なりとかや、〔伊勢物語〕<sup>上</sup>むかし男有けり、その男身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、あづまの方に、すむべき國もとめにとて行けり、もとより友とする人ひとりふたりしていきけり、道しれる人もなくて、まどひいきけり、みかはの國八はしといふ所にいたりぬ、そこを八橋といひけるは、水ゆく川のくもでなれば、橋を八わたせるによりてなん、八はしといひける、其さわのほとりの木のかげにおりゐて、かれいひくひけり、そのさわにかきつばた、いとおもしろく咲たり、それをみてある人のいはく、かきつばたといふ五もじを句のかみにすへて、たびの心をよめといひければよめる、

から衣きつ、なれにしつましあればはるく、きぬる旅をしぞおもふ、とよめりければ、みな人かれいひのうへに、涙おとしてほとびにけり、ゆきく／＼とするが、國にいたりぬ、うつ山の山にいたりて、わがいらんとする道は、いとくらふほそきに、つたかえではしげり、物心ばそくすゝろなるめをみる事と思ふに、す行者あひたりか、る道は、いかでかいまするといふをみれば、見し人なりけり、京に其人の御許にとて文かきてつく、略○中なをゆきく／＼て、むさしの國と、しもつふさの國とのなかに、いとおほきなる河あり、それをすみだ川といふ、その川のほとりにむれゐて思ひやれば、かぎりなく遠くもきにけるかなとわびあへるに、わたし守はや舟にのれ、日もくれ